

新 市 町

竜ヶ崎市

1. 沿革

ここは常磐線佐貫駅から竜ヶ崎線で南へ15分、県南穀倉地帯の中心地として昔から発達したところである。この地方は遠く中古時代の元暦年間に下河政義氏によって開拓され、後数代を経て竜ヶ崎氏と改名して250年余善政をしていたが永享12年に結城氏の一族に亡ぼされた。その後土岐氏の所領となり、永禄10年のころ土岐胤倫が領主となつて、産業の振興、町割の制定、新田開発、堤防、水路、道路の改修などをはじめ、今に残る松並木の偉観や大統寺の開基、八坂神社の創建はみなこの時代に行われたもので、現在の本市発展の基礎が作られた。そして佐竹氏や徳川氏、伊達氏の領地となり、常に代官が治めていたが江戸入府の武家諸侯の足溜地として商店街が発達し、当時において数千の人口を有していたようである。明治維新後は一時竜ヶ崎県、宮谷県、新治県に入り明治8年に茨城県の管内となり、昭和29年に隣接の6カ村(副柴、川原代、北文間、大宮、長戸、八原)を、30年2月に北相馬郡の高須村の一部をそれぞれ合併して、面積71.95平方町、人口34,290人(男16,611、女17,679)世帯数6,640(31年8月毎月口世帯変動調査)を有する新しい田園都市として発足したのである。また県南地方における唯一の商業、交通、教育上の中心地としても将来の飛躍的發展を期待されている。

2. 産 業

まず農業面を見ると、農家戸数3,562、農家人口20,550名(男9,966、女10,585)、耕地面積3,722町(田2,454町、畑1,244町、樹園地21町)、山林1,650町、原野194町を有し、中でも米どころだけあつて、毎年5万石を生産し、他地方に比べ早稲種の作付が多く、早場米1万5,000石を集荷して東京方面へ出している。

次に畜産面を見ると、乳牛54頭、役牛1,371頭、馬116頭、めん羊27頭、山羊201頭、豚1,488頭、兎549頭、にわとり25,037羽を有し、(昭和30年冬期基本調査)本年度からは新農村建設計画の指定地域として農家の有畜化と酪農経営の普及を企図している。また優良農機具の普及は農村電化と相まってその状況は実に素晴らしく、中でもモーターや動力用機具の使用が相当進んでいる。すなわち電動機1,046台、石油発動機394台、動力用脱穀機1,355台、足踏脱穀機766台、動力用穀すり機694台、製粉機282台、精米(麦)機756台、人力用噴霧器420台、動力用噴霧機11台、製糞機403台、足踏1,236台、畜力カルチベーター165台、碎土機499台、畑用播種機212台、畜力用すき918台の多きにのぼり、今後さらに農業の機械化は進むものと思われる。

次に工業面を見ると、事業総数108、従業者数726名、年間製造出荷額8億1,700万円に達し、中でも某会社のトラックの製作は年間約200台にのぼる由。(昭和30年

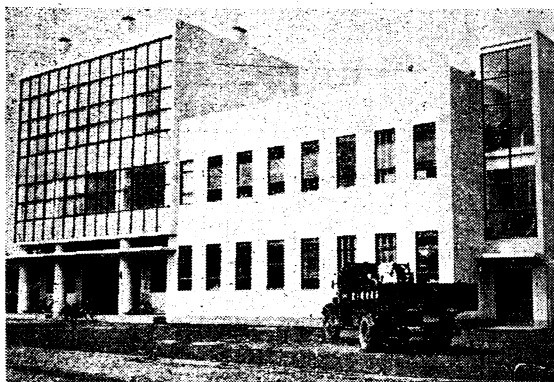
工業調査)また商業面を見ると、昔からの典型的商店街が多く、法人商店および常用労働者を有する個人商店数110、従業者588名、年間販売金額は実に14億7,500万円にのぼり、常用労働者のいない個人商店数594、従業者数993名、8月中の販売金額3,800万円を超えている。中でも食料品や洋品雑貨の卸小売業が非常に多いことが目立っている。

3. 教育文化

ここには高校2、中学校5、小学校8、各種学校4、幼稚園2あつて、高校生徒1,529名(男696、女833)定時制112名、中学生徒2,472名(男1,256女1,216)、小学児童2,492名(男2,492女2,473)、園児186名を有し、県南地方における教育の中心地としての面目躍如たるものがある。また公民館は本館1、分館6を中必に社会教育や文化面の指導に当り、青年学級や成人講座も活発に運営され、勤労青年の一般教養や職業、家事などの技術の向上を期している。市ではさらに教育映画会や体育祭、運動会、水泳大会、柔剣道大会を開催して市民の融和協調の契をあげている。

ここには数多くの名所旧蹟が多く、般若院の枝垂桜は樹令650~700年といわれる県の天然記念物であり、牛久沼の畔にある金童寺は、新田義貞などの菩提寺で付近にはいろいろの伝説が残つていて、李伯の画いた16羅漢の像は準国宝で、800年前に称陽大師が宋国から土産品として持ちかえつたものである。当地にはこのほかにも八坂神社例祭の撞舞(つくまい)は珍しい行事で、五穀豊穰、雨乞い、悪魔追放などを祈願するものさうである。

本年5月には、新しく三階建の近代的市庁舎が総工費2,550万円竣工し、明るい事務室と整備された福利厚生施設に全職員がテキパキと事務処理を行つている風景は誠に美しい限りである。



(新装成つた市庁舎)

4. 財 政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算

(単位円)

歳入	市税	地方交付税	公営企業及分担金及 び財産収入及び負担金		使用料及 手数料	国庫 支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	市債	計		
		73,365,510	21,000,000	2,332,586	390,000	3,392,551	13,339,825	3,479,728	1,045,002	2	1	6,591,300	9,000,000	133,936,505	
歳出	議会費	市所費	警察消費費	土木費	教育費	社会及び労働 福祉施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	計
		3,319,480	32,262,556	5,649,500	16,265,708	16,313,038	21,409,402	6,348,290	8,664,571	1,003,896	283,496	1,988,100	18,931,230	1,000,000	133,936,505

村 の 横 顔

やちよ 八千代村

1. 沿革

この村は結城郡の北半を占め、常総線下妻駅からバスで西へ走ること約10分、坦々と連なる田畑に美しく実のつた黄金の穂波を眺めながら、鬼怒の清流を渡ると間もなく役場の前に出る。この地方は昔から鬼怒川の流域に開け、地味肥沃にして人情風俗きわめて純真な田園地帯であるが、古くは常陸国、新治国、結城国などに属し、結城氏、佐竹氏、多賀谷氏、徳川氏などが代々激しく勢力争いを行つたものと思われ、各地に城址やとりでの址が残っている。昨年1月には、結城郡の西豊田、中結城、安静、下結城の各村と、真壁郡の川西村の5カ村が合併して新しく八千代村となり、さらに同年6月には猿島郡三和村を編入して、面積60平方町、人口26,267名(男12,781、女13,495)世帯数4,224を有し、県内でも有数の大農村として発足したが、今後の発展が期待されている。(昭和31年8月毎月人口世帯異動調査)

2. 産業

まず農業面を見ると、農家戸数は3,471戸で全戸数の82%を占め、農家人口22,611名(男11,206、女11,405)、耕地面積3,514町(水田1,180町、畑2,148町、樹園地21町、茶園23町、桑園142町)、山林600町を有し(昭和31年8月夏期基本調査)、純農村地帯として立派な条件を備えている。特に安静地区の蔬菜類、川西地区の梨は有名であるが、最近では各地区の園芸出荷協同組合の統合強化を計り、これが合理化を推進しようとしている。梨は年産17万メに達し、作付92町に達する西瓜の「新みやこ」の普及によって東京方面の出荷も増加して大変好評を博している由。

次に畜産面を見ると、乳牛65頭、役牛1,861頭、馬208頭、豚1,147頭、山羊399頭、めん羊35頭、にわとり30,470羽にのぼり(昭和31年冬期基本調査)好適な立地条件や新農村建設計画の樹立と相まって広範囲に酪農経営を取り入れる方向に進んでいる。村としても現在畜産組合や特産組合などの育成指導と土地改良事業の推進による二毛作田の拡張や畑地灌漑の奨励などに全力を注ぎ、農家経営の収入増加を計っている。

また農業用機械の動力化は急速に進んでおり、電動機398台、石油発動機1,470台、動力用耕うん機25台、脱穀機1,821台、足踏脱穀機794台、穀すり機748台、製粉機157台、精米(麦)機258台、噴霧機8台、人力噴霧器524台、製縄機168台、足踏製縄機1,560台、畜力用カルチベーター840台、砕土機532台、エンシレージカッター17台などの多数にのぼり、農業の有畜化や家畜飼料の自給化、経営改善の推進とともに近代的農村の建設に大きな役割を果すものと思われる。

次に養蚕農家は588戸にのぼり、昨年の収繭高は実に24,200メといわれ、結城紬の機織りを副業的に経営しているものも約300戸くらいあるそうである。

次に商工業面を見ると、西豊田地区や下結城地区がその中心地であるが、農村地帯のためにほとんど見るべきものはない。まず商業では、法人および常用労働者のいる商店が10、従業員数76名、年間販売金額9,500万円、常用労働者のいない個人商店が323で従業員数1,074名、7月中の販売金額約3,000万円に過ぎない。(昭和31年7月商業調査)また工業では事業所数53、従業員数121名で年間製造出荷額1,897万円に達しているが、中でも粘土瓦やセメント瓦の製造業が19カ所あって、優秀な製品を出荷して非常に好評を得ている由。(昭和30年12月工業調査)

3. 教育文化

ここには中学校5、小学校6あつて、中学生徒数1,891名(男971、女920)、小学児童数4,011名(男2,012、女1,999)に達し、各地区ともPTAの協力を得て設備の拡充強化に努めている。この村では4Hクラブの活動が非常に活発で、リーダー講習会や研究会なども再三開かれて優秀な実績を取め、他町村の模範とされている由。また婦人会の活動も、生活改善のモデル指定村として県の指定を受けたのを機会に、台所や便所、灰置場などの施設改善を奨励し、薬剤の半額補助も行っている。公民館を主体に社会教育事業として青少年の教養文化、娯楽、柔剣道などの指導を行つているが、重点施策の推進と相まって、平和で明るいな郷土が築き上げられることもそう遠くないことだろう。また村では合併記念をして、村役場の庁舎を中結城地区に工費約1,200万円で新築することになっているそうである。



(農家の乳しぼり)

4. 財政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算

(単位円)

歳入	村税	地方交付税	公共企業及び財産収入	分担金負担金	使用料手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	村債	合計		
		31,731,000	21,363,000	3,000	1,000	302,000	5,012,000	2,320,000	301,000	1,000	3,979,683	14,800,000		79,996,000	
歳出	議会費	役場費	警消防費	土木費	教育費	社会及び労働衛生施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
		1,540,000	30,729,400	4,770,000	2,650,000	26,237,807,000	807,000	1,281,000	6,749,000	152,000	283,000	487,000	1,326,000	2,660,000	325,000